

乳用牛の2022-8月評価から「乳房の傾斜」の評価値の公表開始

乳房の傾斜(体型の線形審査項目)の公表の開始

近年、搾乳ロボットの普及により、搾乳ロボットに適した乳房の形状への改良が求められてきています。搾乳ロボットの不適合になる基準の一つとして、乳房の底面の傾斜があり、極端な傾斜がある場合は好ましくありません(図1参照)。そこで、体型審査の際に評価される乳器に関する主要な線形形質のうち「乳房の傾斜」の遺伝的能力評価を2022-8月評価から開始します。

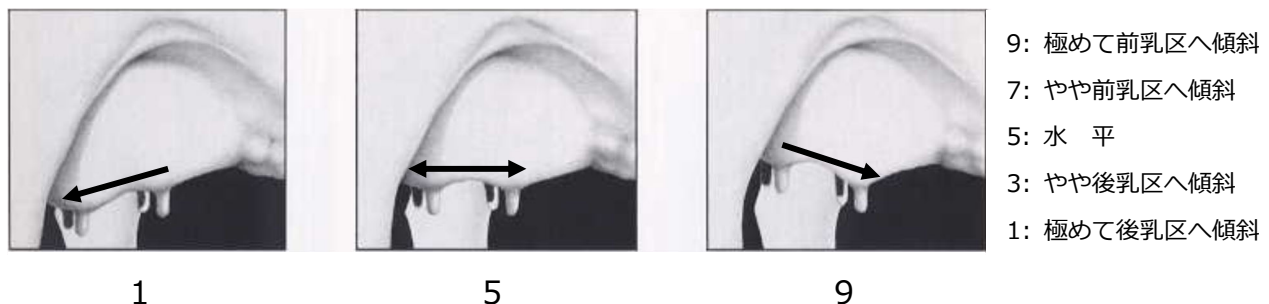


図1. 乳房の傾斜の体型審査基準

表型データの概要は、「乳房の傾斜(体型の線形の審査項目)の現状(<http://www.nlbc.go.jp/kachikukairyo/iden/nyuyogyu/newinfo/uti.pdf>)」をご参照ください。また、「乳房の傾斜」は、中程度(線形スコア5)が好ましい形質であり、「乳用種雄牛評価成績:通称(赤本)」の横向き棒グラフには、線形スコア5に相当する標準化育種価(SBV)の位置を星印で示しています。SBVは2015年(ベース年)生まれの雌牛の平均値を0として、標準偏差単位で表したもので、標準偏差単位で表すことで異なる尺度の形質を同じ尺度で表すことができます。横向き棒グラフでは、ベース年生まれの雌牛の平均値から当該牛がどの程度離れているかを視覚的に判断できるように工夫されています。「乳房の傾斜」では、SBVが小さくなる(グラフでは左側)ほど「後傾斜」、大きくなる(グラフでは右側)ほど「前傾斜」という表現になります。星印の位置が真ん中(SBVが0)とならないのは、ベース年生まれの雌牛の平均値が必ずしも線形スコア5とはならないからです。従って星印の位置に相当するSBV(-0.8)に近い種雄牛を選択することで、乳房の極端な傾斜を防ぐことが期待できます。